

はじめに

「地域共生社会の実現にむけて」

近年わが国では、急速に進む少子高齢化、核家族化、ライフスタイルの変化等に伴い、福祉課題の多様化・複雑化が進行し、高齢者、障がい者、児童などの対象者ごとに支援を提供する従来の公的サービスだけでは、対応が困難なケースが増えており、「制度の狭間」の支援は、地域全体の課題といえます。

倉敷市においても、加齢に伴い、買い物や掃除、洗濯などの日常生活のなかでちよつとした困りごとを抱えている人や、高齢者世帯、独居世帯のみならず、地域から孤立し必要な支援につながない人は少なくありません。

しかし、このような課題に対し、自分たちで気づき、考え、自然体で取り組んでいる人たちの姿が地域にはありました。「地域の希薄化が進んでいる」、そんなことはありません。

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超え、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超え、縁（関係）が生まれ、円（連携）や、援（支援）となった「共に生きる」活動は現在も元気に生きています。

この「地域共生ガイドブック」△（参画）は○（えん）になる¹は、そのような地域共生の取り組みや地域で活躍する支援者、関係機関等を紹介する情報をまとめたものです。本ガイドブックを通じて、「地域共生社会」の実現に向けた取り組みのヒントを感じていただき、新たな活動への△（参画）やそれによって生まれる○（えん）への架け橋になれば幸いです。

なお、本ガイドブック作成にあたり、事例の掲載及び取材にご理解・ご協力いただきました地域の皆様に、厚くお礼申し上げます。



瀬戸大橋の写真
「児島フォトグループ」提供